

留学を経験して

情報文化学科2年 吉村 洋輝

自分は最後まで中国へ留学に行くかどうか迷っていました。先輩方の留学体験談を聞き、強い好奇心覚え留学へ行きたいと思う反面、自分に中国での留学生生活を成し遂げられるのかという不安もあったためです。しかし、留学に行くことのできる機会はとても限られたものであることや自分の視野を広げる良い機会でもあったため留学を決意しました。

留学先での授業はすべて中国語で主にパワーポイントなどを活用し、様々な国籍の外国人と一緒に授業が行われました。現地での授業は自分が留学でいちばん不安に考えていたことでもありました。授業の内容として、授業中に先生から質問されることや、発表を行う場面が少なくありません。初めの頃は苦勞しました。単純に質問の内容が理解できずに答えることができなかつた事もあれば、簡単な内容の質問でさえも慣れない場の空気に呑まれ上手く回答できないことが多くありました。一方、同じクラスの外国人学生は積極的に発言や発表を行っており、その授業に対する姿勢は見習っていかなければならないものだと感じました。ですが、今改めて考え直すと、苦勞することも留学での貴重な体験の一つでもあったのではないかなと思います。そして、1ヶ月を過ぎる頃になると授業のペースにも段々慣れることができ、内容も少しずつ理解できるようになると、授業が楽しく感じられるようになりました。同じ寮に住んでいたクラスメイトとは、授業が終わり寮に戻った後に、その日授業で習った単語や内容を使用し、実際に会話したりなどしました。お互いの中国語の上達にとっても良いものになったと感じています。その後様々な国籍の外国人の友人もでき、一緒に食事に行ったり、授業でも自信をもって発言することが出来るようになりました。最初は思うように自分の伝えたいことを伝えることができずに苦しい思いしましたが、時間が経つにつれ、以前自分が伝えられなかつたことも伝えられるようになり、外国人の友人とは辛かつた出来事や悲しかつた出来事、嬉しかつた出来事など様々ことを話すことが出来ました。自分の中国語の上達をその場で実感することが出来たので嬉しかつたです。

留学中の観光もとても印象に残るものでした。北京には万里の長城、故宮、頤和園などといった有名な観光名地も集中しているほか、それ以外でも見どころのある場所が多くありました。観光中は日本にはない建物や雰囲気を感じることができ、本やテレビで見た景色や建物を自分の目で実際に見ることができて感動的でした。

今回の留学で、中国へ対する考え方は大きく変化しました。特に中国人はとても親切であるというイメージを強く受けました。道を尋ねると親切に教えてくれましたし、中には目的地まで実際に案内してくれる方もいました。さらにバスの中や地下鉄では積極的にお年寄りに席を譲っていました。

そんな中国での四ヶ月間はあっという間で、本当に充実した四ヶ月間でした。留学前は不安も大きく迷っていた自分ですが、後悔は全くありません。留学へ行く選択をして本当に良かったと思います。授業ので習った所をその日に使い活かす事ができるため、中国語の上達には本当に良い環境であったと思いますし、外国人の友人も多くできました。その中で様々な文化への理解を深めることも出来ましたし、日本の文化も伝えることもできました。もちろん留学先では苦勞することもありましたが、その一つ一つは良い経験でもあり、思い出でもあり、なによりそれを乗り越えることによって人間的に強くなれたのではないかと思います。